

東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所
2022年度 パフォーマンス向上会議情報(2022年8月25日(木)分)

◆不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

2022年8月25日のパフォーマンス向上会議で審議された不適合は、下記のとおりです。

番号	不適合内容	グレード	発見日
1	<p>【電解水製造装置のアルカリ水タンクの水位センサ異常について】 協力企業作業員が、マスク洗浄に使用する電解水製造装置のアルカリ水タンクの水位センサ異常警報が発生し、当該装置が停止したことを確認。 現場確認の結果、当該タンクの水位センサのうち、一部が動作していないため、当該装置が停止したと推定。その後、確認中に水位センサが復帰し、今回と同様の状態は発生しておらず、当該装置は現在運転可能な状態に復帰している。 今後、当該タンクの水位センサを交換予定。</p>	GⅢ	8月22日
2	<p>【管理対象区域への立入解除の処理誤りについて】 協力企業作業員が作業従事者登録関連業務において、福島第一原子力発電所と福島第二原子力発電所ともに入構可能な管理区域立入許可証を使用していた登録者の、福島第一原子力発電所の作業従事者登録の解除手続きを行う際、誤って両発電所とも管理区域立入許可証の廃止処理を行ったため、福島第二原子力発電所において管理区域立入許可証が使用できなくなった。 当人は、翌日福島第二原子力発電所にて管理区域立入許可証を再発行済み。 今後、再発防止対策を検討。</p>	GⅢ	8月22日
3	<p>【電解水製造装置の排水タンクの水位センサ異常について】 協力企業作業員が、マスク洗浄に使用する電解水製造装置に異常を示す警報が発生し、当該装置が停止したことを確認。 現場確認の結果、当該タンク水位センサが動作せず、排水ポンプが自動起動しなかったため、タンク内の水位上昇が続いたことから警報が発生し、当該装置が停止したものと推定。 なお、警報をリセット後、動作確認を実施したところ、今回と同じ状態は再現されず、当該装置は現在運転可能な状態に復帰している。 今後、当該タンクの水位センサを交換予定。</p>	GⅢ	8月23日
4	<p>【2号機窒素封入設備追設ラインの通気検査における既設計装ラック接続部の微小漏えいについて】 当社社員が、新設した2号機窒素封入設備追設ラインの通気検査における、追設ラインの漏えい検査時に、既設計装ラックと追設ラインの接続部より窒素の微小漏えいを確認。 今回の通気検査は、使用前検査が予定されていたため自主的に行った社内検査であり、その検査において不具合が確認されたもの。 当該接続部は修理を行い、漏えいが無いことを確認済み。 なお、当該設備は使用前の設備であり、運転中の窒素封入設備への影響はない。</p>	GⅢ	8月23日